

令和7年度 第2回しが子ども読書活動推進協議会 議事概要

日 時：令和8年3月5日（木）10：00～12：00

会 場：滋賀県庁新館4階 教育委員会室

出席者：小野田委員（会長）、鹿取委員、草間委員、橘委員、澤委員、二井委員
川副委員、和泉委員、岸村委員（代理：松島主査）、
畑委員（代理：廣田指導主事）、嘉瀬委員（代理：小林指導主事）、
濱委員、村田委員

事務局：生涯学習課 川越総括補佐、浦谷主査、玉利主査、木村社会教育主事、
矢田主査 大藤指導主事 北相模指導主事

（※傍聴：なし、取材：京都新聞社）

議題：

1. 第5次滋賀県子ども読書活動推進計画の進捗報告
令和7年度子ども読書活動推進の取組報告
2. 令和8年度子ども読書活動推進事業の取組報告

1 開会

○生涯学習課長挨拶

- ・第5次滋賀県子ども読書活動推進計画では、4つの重点取組事項を掲げている。
- ・本年度5月より、全公立小中学校を対象とした学校図書館活用学校訪問を開始した。学校図書館運営の促進に関わる指導助言を目的に105校に訪問した。
- ・学校図書館サポーター養成講座は2年目。東近江地域を対象に実施。学校司書が日々行う業務や国語科の授業を見学する希望受講を設定し、より実践的な知識や技術の習得にも力を入れた。
- ・「滋賀まるごと読書フェア」では、国の事業の採択を受け、外輪船ミシガン船上での読書イベントや「わた SHIGA 輝く障スポ 2025」をはじめ、県内各地で開催されるイベントにブース出展をしてきた。
- ・来年度の新規事業として、子どもたちが図書館や司書の仕事に触れ、自ら考える場を設ける「いつでもどこでも『こども としょかん』推進事業」と、読書の裾野を広げるため地域の書店と図書館等との連携を支援する「書店等との連携による読書のまちづくり推進事業」がある。
- ・読書活動の振興について、県議会でも関心を持っていただいている。

○事務局より

- ・設置要綱の確認
- ・関係課7名の委員

○小野田会長挨拶

- ・第5次推進計画が2年目を迎え、滋賀の子ども読書環境の整備が進み、理念が実現していると実感している。

・議題 1 と 2 について事務局から説明を求め、その後、協議を充実させていきたい。

2 議事

○会長より

・本日の議題を説明

(1) 令和 7 年度子ども読書活動推進の取組報告について

(2) 令和 8 年度子ども読書活動推進事業の取組報告

①学校図書館の機能強化および取組の充実について

○事務局より説明

・学校図書館サポーター養成講座 資料1・資料2・別添資料(2)参照

令和 6 年度に開始し、令和 7 年度は東近江市を中心に全 7 回開催した。

実践的な知識・技術習得にも力を入れ、受講生からは学校図書館の役割や専門性への理解が深まったとの声があった。

現在 25 名が修了し、3つの市町への情報提供も行っている。

令和 8 年度も継続し、県北部での開催を予定している。

3年間を一つの区切りとして、今後の方向性を改めて確立したい。

○幼小中教育課より説明

・学校図書館連携推進事業 資料1・資料2・別添資料(3)参照

令和 6 年度に開始し、今年度は2年目となる事業。

オンライン開催に移行し、参加しやすい環境を整備した。

学校図書館の3機能の活用例などをテーマに協議を行い、アンケート結果からも参加者の学びが多いことが示された。他校の取組や他市町の意見をを得る機会がなく、新たな学びの機会となった。

令和 7 年度は合計 363 名（第 1 回）、353 名（第 2 回）が参加した。

令和 8 年度も引き続き、実施する。

・読書活動推進事業 資料1・資料2参照

推進協力校は近江八幡市立金田小学校、安土中学校の2校。

中学校ではビブリオバトルの実践。小学校では物語作りなどの授業実践を行った。

文科省の委託事業であり、後日、文部科学省ホームページに掲載される予定。

令和 8 年度の研究指定校は長浜市の古保利小学校と高月中学校で、11月5日と11月10日には研究発表大会も予定されている。

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・司書教諭等連絡協議会 資料1・資料2参照

第1回は7月3日の実施し、第2回は選択研修の形式とした。

学校図書館の3機能を活用した授業のあり方や、学校での教育活動全般で子どもたちが読書に親しめる読書環境作りについて協議を行った。

次年度も継続して開催する予定。

・学校司書研修会・交流会 資料1・資料2・別添資料(4)参照

専門職である学校司書の力量の向上を目指し、今年度の新規事業として実施した。

全7回で延べ406名が参加し、著作権や支援活動のあり方について講義・実践交流を行った。

次年度も継続して開催する。

・学校図書館活用学校訪問 資料1・資料2・別添資料(5)参照

今年度新規事業として開始した。令和9年度までに県内全ての公立小中学校、義務教育学校、県立中学校に計画訪問を実施する。

今年度は105校に訪問し、次年度は108校に訪問する予定。

事前確認シートに基づき、各学校に適切な指導助言となるよう努めている。

学校図書館活用の好事例を把握し、他市町への横展開を図っている。

・学校図書館に係る研修の充実 資料1・資料2

県総合教育センターの課題解決能力研修に「読書活動の推進」を新設し、オンデマンド研修を実施した。

新任校長研修の必須研修と位置づけ、学校図書館に係るマネジメント能力向上を図る。

今年度は38名が受講し、評価も高かった。次年度も継続して実施する。

来年度は特別支援学校への読書支援についても検討を進める。

②子どもの読書活動を支えるひとづくりについて

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・子ども読書ボランティア研修会 資料1・資料2・別添資料(6)参照

子ども読書ボランティア研修会を2回開催した。

本の魅力や選び方をたくさんの本をもとに照会していただいた。

子どもの読書や読み聞かせボランティアの活動に関心のある人々等へ学びの機会を提供できた。

次年度も継続して、子どもの読書活動を支える人づくりの取組を進める。

③子ども・子育て世代にとって居場所となる図書館づくりについて

○県立図書館より説明 資料1・資料2・別添資料(7)参照

・パパママのキャリア+育児サポートプロジェクト

図書館1階の「おひぎでだっこコーナー」を改装し、育児書なども配置した。

9月から託児サービスを開始し、大変盛況で令和8年1月までに161名の利用があった。

令和8年度も継続し、おはなし会後の読み聞かせ相談なども検討している。

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・いつでもどこでも「こども としょかん」推進事業 資料1・資料2・別添資料(8)参照

令和8年度新規事業として実施する。

子どもたちが図書館に親しみ、司書の仕事を知る機会を創出する。

最新の図鑑を題材に、図書館や司書の役割を知るプログラムを検討中。

子どもたち自身が読書について考え、意見を提案するワークショップも実施し、今後の取組に反映させる。

④乳幼児期からの読書週間の形成について

○生涯学習課より説明

・子ども読書啓発チラシの作成・配布 資料1・資料2

今年度も、子ども読書啓発チラシを作成し、県内関係機関に配布した。

チラシには、学習情報提供システム「におねっと」上の「えほんいっぱい たのしさいっぱい」電子データにアクセスできる二次元コードを案内し、希望者には冊子版の配付を行った。

令和8年度も継続し、アンケート実施により今後の取り組みにフィードバックする。

令和9年度に向けて冊子の改訂や新規作成を本協議会において検討したい。

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・多様な子どもたちの読書機会の確保 資料1・資料2・別添資料(6)

大津少年鑑別所や子ども家庭相談センターへの読書機会確保の支援を行った。

お話会の実施や本の貸し出しを行い、関係機関と連携して取り組んでいる。

来年度は少年鑑別所での講話なども検討している。

○県立図書館より説明

・おはなし会の開催 資料1・資料2参照

毎月第3金曜日に県立図書館で実施しており、今年度2月末までで157名が参加。

来年度以降も継続予定。

⑤第5次滋賀県子ども読書活動推進計画の指標の推移について 資料1・資料2・別添資料(9)

○生涯学習課より説明

新たに追加した指標(乳幼児の読書啓発、学校外での読書時間、高校生の読書割合)の

現状から、全体的に読書割合の低下傾向が見られ、さらなる推進の必要性がある。
学校司書の配置状況については、県の独自調査結果と国の調査結果の違いがあり、参考値として報告する。
その他、子ども読書活動に関わる調査活動や情報提供についても継続していく。

⑥滋賀県読書のまちづくり推進事業について

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・滋賀まるごと読書フェアの実施 資料1・資料2・別添資料(10)

文部科学省のモデル事業として実施し、先月終了した。

「滋賀まるごと読書フェア」として、ミシガン船上での読書イベントや創作紙芝居の発表など、地域と連携した取組を展開した。

本事業を通して、書店や出版社、図書館が一堂に会した協議会が初めて開催され、読書のまちづくりの方向性が見えた。

情報伝達の手段(SNS 活用)や、多様な選択肢の提供(フェアの多会場開催)の重要性を感じ、今後の事業にいかしていきたい。

・書店等との連携による読書のまちづくり推進事業

地域書店や図書館、学校と連携し、読書振興を図ることを目的とする。

滋賀まるごと「こども としょかん」の一環にも位置づけ、深刻な読書離れの改善に努めたい。

(3)質問・意見

橘委員 ・「学校図書館サポーター養成講座」について、令和7年度の募集要項にあった「これまでに同講座を受講されていない方」という要件が、来年度の資料に見当たらない点について、受講対象者の変更があったのか確認したい。

事務局 ・ご指摘のとおり、来年度資料には当該要件は記載していないが、基本的には、養成講座の修了生名簿への掲載を前提としており、来年度も新規の受講者を対象とすることを想定している。

上田委員 ・今年度の「子ども読書ボランティア研修会」の開催に感謝申し上げる。サポーター養成講座と同様に、ボランティア研修会における参加者の声やアンケート結果について、どのような意見が寄せられたのか。

事務局 ・第1回研修会では、本の情報に対する高い関心が見られ、第2回研修会では、絵本を通じた子どもの読書への深い理解を促すことができたとの肯定的な意見が多く寄せられた。今後の課題としては、グループワークの導入が挙げられており、次年度の研修に活かしていきたい。

草間委員 ・今年度から開始された「学校図書館活用学校訪問」について、1年間の実施を通じて、どのような手応えや具体的な成果があったのか。当市(栗東市)の地元の小

学校は来年度訪問対象となるため、大変期待している。

事務局 ・訪問を通じて、市町間の学校図書館の状況に大きな格差があることを痛感した。学校司書の配置状況や、教員の学校図書館に対する認識に大きな差が見られた。

・訪問時には、他市町の事例を共有し、各学校における課題解決や、市町の教育委員会への予算措置の働きかけを行っている。

二井委員 ・「学校図書館活用学校訪問」について、3年間で300校以上を訪問するという県の取り組みに深く感銘を受けた。日々の訪問はどのように行われているのか、また3年間の取り組みの総括や成果発表について、現時点で検討されていることがあるか。

事務局 ・訪問は、指導主事と司書の2名体制で訪問している。

・各学校では、校長に学校図書館の活用状況についての話を伺い、資料を用いて指導・助言を行っている。指導時間は、県と市町の教育委員会を合わせて40分程度設けている。

・学校図書館の重要性を、学力向上に繋がる視点からも伝えているが、中には学校図書館の活用について初めて認識される校長先生もおられる。

・3年間の取り組み終了後には、学校司書の配置状況の変化や、教員の意識改革の進捗について注視していく方針である。

会長 ・「学校図書館に係る研修の充実」について、新任校長研修における学校図書館への受け止め方や、研修の感想についてはどうであるか。

・別添資料に示されている学校司書の配置状況(84.9%、81.7%)が目標値を上回っている点について、この「配置」の定義、例えば短時間勤務も含まれるのか等、具体的なカウント方法はどのようになっているのか。

事務局 ・新任校長研修においては、「学校図書館の活用が子どもの教育にとって重要であると初めて知った」という感想が多く寄せられており、学校図書館の重要性に対する認識を高める必要性が改めて確認された。

・学校司書の配置状況については、別添資料に示されている数値は県の独自調査によるもの。この調査では、短時間勤務であっても配置されている場合はカウントしている。国の調査では外部委託の学校司書は含まれないので、数値に差異が生じる点に留意が必要である。

上田委員 ・「学校図書館サポーター養成講座」の継続は大変ありがたい。

・地域の中学校で「学校訪問」の効果が見られたという事例もあり、読書活動推進への取り組みの大きさを実感している。

・一方で、「子ども読書ボランティア研修会」については、読書ボランティア活動に関わる人材の高齢化と新規参加者の不足が深刻な課題となっている。研修内容として、初心者向けと経験者向けにレベル分けを行うことや、絵本以外の分野(紙

芝居、パネルシアター、ブックトーク等)のスキルアップ研修を取り入れること、またオンライン研修の更なる拡充を提案する。

会 長 ・上田委員のご意見を踏まえ、ボランティア研修会と学校図書館サポーター養成講座の合同開催など、研修機会の選択肢を広げる可能性についても検討していきたい。

鹿取委員 ・上田委員のご指摘の通り、ボランティア活動の高齢化と新規参加者の不足は深刻であり、活動の縮小を余儀なくされている。保護者の多忙化により、ボランティア活動への参加や、子どもへの読み聞かせ時間の確保が困難な現状があり、子どもたちの読書離れが進む中、ボランティアに依存しない新たな支援体制の構築が必要であると強く感じている。

橋 委 員 ・ボランティア不足は読書分野に限らず一般的な課題だが、子どもの読書に関しては学校の意識が極めて重要だと考える。校長先生が学校図書館の重要性を再認識されたように、現場の教員の意識向上も不可欠である。保護者は将来のボランティア人材であり、学校が保護者に対し、読み聞かせなどのボランティアを積極的に募るべきである。また、学校図書館の蔵書は、子どもたちの興味関心に合わせた多様なジャンル(スポーツなど)を充実させることで、図書館への関心を高めることができると思う。

草間委員 ・私自身も地域で図書館ボランティアとして活動しており、学校訪問や学校司書の重要性を実感している。学校司書の選書や陳列は子どもたちの読書意欲を高める上で不可欠だが、市町ごとの配置状況に格差がある現状を憂慮している。子どもたちは本やお話が大好きであり、環境を整えば自ら読書に親しんでくれる。教員の多忙な現状を鑑みれば、校長先生の意識向上や学校訪問の取り組みは非常に重要であり、教室内に学級文庫を充実させるなど、子どもたちが常に本に触れられる環境整備を求めたい。

・また、幼稚園や保育園といった未就学児の段階からの読書支援の重要性を強調し、子どもたちの近くに本を届ける取り組みの更なる充実を希望する。

澤 委 員 ・学校現場の教員として、多忙な中でも読書教育の重要性を痛感している。
・「学校図書館活用学校訪問」は、学校図書館の重要性を学校全体に啓発する極めて有意義な取組である。学校司書の配置は行政の力が不可欠であり、この訪問を通じて市町の担当者と課題を共有できることは大変意義深いと考える。

・未就学児の読書習慣形成の重要性については、学力向上だけでなく運動能力にも影響するという研究結果もあり、「パパママのキャリアプラス育児サポートプロジェクト」のような公共図書館の取り組みを高く評価する。

・「いつでもどこでも『こども としょかん』推進事業」における、子どもたちが自ら意見を述べる機会にも期待しており、学校でもその意見を参考にしたいと考えている。

・「滋賀まるごと読書フェア」などの「滋賀県読書のまちづくり推進事業」は、滋賀の特色を活かした有意義な取組だった。今後も学校と連携し、読書の裾野を広げていきたい。

二井委員 ・滋賀県公共図書館協議会、滋賀県読書のまちづくり推進協議会、自治体図書館長のそれぞれの立場から意見を述べさせていただくと、公共図書館協議会理事と知事との懇談や、まちづくり推進事業の議論を通じて、読書人口の増加、本を届ける方法、書店との連携が重要な課題として浮上してきた。

・「滋賀県読書のまちづくり推進事業」は、無事に終了し、一定の成果も得られたと思っているが、課題も見えてきた。今後の継続的な発展を期待している。両会議で共通して認識された課題に以下の3点が挙げられる。

1. 広報・情報提供の強化

県内で実施している様々な読書推進の取り組みが県民に十分届いていないため、県のウェブサイトで発信する等の取組が必要である。

2. 学校との連携強化

読書に興味のない子どもたちへのアプローチが重要であり、学校へのアプローチは最適であると考え。公共図書館や書店も学校と連携・協力し、不読率の低減を推進していく取組が必要だと考える。

3. 県全体での継続的な取組

読書活動推進事業を単発で終わらせることなく、継続性を持たせるとともに、関係機関(書店商業組合、出版社、学校、図書館等)の縦割り事業ではなく、横の連携を強化し、県のバックアップ体制のもと、県内各所での取組を滋賀圏全体の取組として充実させていただきたい。

・草津市では、未就学児の読書の重要性についてエビデンスをもとに予算を取り、絵本セットを市内70施設の未就学施設に巡回配本している。子どもの読書習慣形成には大人も読書が好きであることも大事であり、読書の大切さを知っている大人が子どもの周りにいるということも大事である。

川副子ども ・児童福祉所管部署として、「学校図書館活用学校訪問」に感謝申し上げる。

若者政策・ ・当課所管の児童自立支援施設「淡海学園」では施設内に学校があり、土山中学校の分教室の位置づけだが、図書環境が脆弱な現状である。以前より知事からも私学振興 校の分教室の位置づけだが、図書環境が脆弱な現状である。以前より知事からも課長 図書環境の充実について指示があった。分教室が取り残されることがないか、今後の施設からの要望があった際には、特段のフォローをお願いしたい。

会 長 ・児童自立支援施設や特別支援学校など、特別な配慮を要する子どもたちへの読書支援は一律の対応とならない困難さはあるが、非常に重要である。

・「いつでもどこでも『こども としょかん』推進事業」において、対象を単に小中学生とするだけでなく、学校の図書委員を対象とした交流会を設けることで、子どもたちが主体的に学び、学校へ還元できる機会にすることを提案する。

・また、草津市の未就学児への絵本セット巡回配本のように、教育支援センターへの対応など、県がモデルとなる取組を示すことで、各市町が読書推進に積極的に取り組むきっかけとなることを期待している。

・別添資料(9)に示されている学校以外の読書時間の低下は、書店数の減少とも関連している可能性があり、学校だけでなく家庭や地域全体で読書活動を推進する必要性を感じる。

・「子ども読書啓発チラシ」についても、幼児向けだけでなく、小学校高学年や中学生向けについても、順次、定期的に更新・配布を継続していただきたい。

3 閉会

○小野田会長挨拶

- ・本日のお礼

○濱課長 閉会挨拶

- ・この 2 年間は、「こども としょかん」の取組が本格化した時期であり、多くの課題を抱えながらも、着実に動き出すことができたと感じている。
- ・本日いただいたご意見を活かし、引き続き取り組みを進めていく。
- ・今回の協議会が一旦は最後の場となるが、今後も個別の相談や助言をお願いする。